

1 研究主題

自ら進路選択できる生徒の育成をめざして
 ー進路選択に役立つ進路学習を通してー

2 はじめに

生徒の進路をめぐる環境や意識は大きく変化している。中学校における進路指導もその変化に対応することが強く望まれている。「働くこと」「学ぶこと」は、中学校3年間における進路指導の大きなテーマである。現在の自己を見つめ、将来の自分を思い描いて努力することは、生き方指導の面から重要な課題となっている。小牧市進路指導教育研究会では、この「自ら進路選択のできる生徒の育成をめざして」の大テーマのもと、数年間にわたり研究を続けている。

3 研究経過

現在、高等学校や専修学校の教育方針、学科、コースなどが多様化し、生徒が進路選択する上での幅が広がっている。しかし、たくさんある選択肢の中から、それらを吟味し、適切に選択することができない生徒もいるのが現状である。また、入試日程が早まったことにより、生徒たちが自分自身の進路について考えられる時間が減ってしまったという現状がある。

多くの進路情報を生徒が得る中で、生徒自身が主体的に考えて進路選択をするためには、どのような情報を必要としていて、必要とされる情報をより効果的に、適した時期に提供するには、どのような手立てが有効であるかを検討したいと考えた。そこで、市内各校で行われている進路行事や進路学習、進路説明会等の資料を持ち寄り、情報交換と協議を行った。また、今年度は数ある進路行事の中でも、特に職業人体験と進路説明会に着目し、研究に取り組んだ。

4 研究の概要

(1) 総合的な学習の時間 職業人体験学習を通して

A 中学校では、生徒が目的をもって主体的に進路選択ができるようにするために、体系的な進路学習が必要であると考え、以下のように取り組んだ。

1 年生	2 学期	身近な人の職業を調べよう
	3 学期	電話のかけ方 アポ取りなどのスキル学習
2 年生	1 1 月	職業人体験学習 職場調べ 仕事の内容調べ
	1 2 月	職業人体験学習実施
	1 月	職業人体験学習で学んだことを発表しよう

	2月	卒業後の進路調べ
3年生	4月	学ぶ意味について考えよう
	5月	進路に対する不安を克服しよう
	6月	面接試験に備えよう
	7月～	上級学校体験入学など

このように2年生の職業人体験学習を軸に、3年間で生徒が系統的に進路学習できるよう計画的に活動を行った。

(2) 進路説明会について

私立推薦入試や公立一般入試で約2、3週間、公立推薦入試に至っては約1ヶ月、試験が前倒しになった。入試日程の早まりを受け、平成29年度、市内9校中2校のみ行っていた2年生3月の時期の進路説明会が、令和5年度は市内9校中、8校において実施されることとなった。例えば、A中学校では、2年生を対象にした高等学校や職業相談所の話を聞く進路説明会を開催した。その結果、説明会後のアンケートにおいて、保護者から『姉の時と入試の制度の違いが分かり、聴いて良かった。』という声や、生徒からも『公立入試において、当日の点数をとることがより大切だと思った。今からしっかり勉強を頑張りたい。』といった声を得られた。

また、B中学校では、令和5年6月に3年生を対象に高校4校と専修学校1校の話を聞く進路説明会を開催した。その結果、一人あたりの体験入学の参加校数が、コロナ禍や日程の都合で進路説明会が開催できなかった令和4年度と令和6年度に比べて多いという結果になった。

	体験入学の参加数(延べ)	3年生の生徒数	一人あたりの参加数
R4	430	150	2.87
R5	467	130	3.59
R6	398	132	3.02

また、C中学校では、生徒が話を聞く学校を選択することができる分科会形式での進路説明会を3年生1学期に開催している。生徒が話を聞きたい学校を選択するため、生徒が主体的に話を聞くことができた。そのため、進路説明会後のアンケートでは、C中学校は一斉形式で開催している他の中学校に比べ、「進路選択において役立ったこと」という質問において、進路説明会を選択する割合が高くなっていた。

5 今後の課題

職業人体験学習を軸にして、3年間で系統的に進路学習を行うことや、進路説明会の開催時期や方法を工夫することは、主体的に進路選択できる生徒を育成するために有効であると考えられる。しかし、他の学校行事との兼ね合いや教室や教員の確保などの問題があり、すべての中学校で同じように開催することは難しい。各中学校の状況を踏まえ、それぞれの学校に適した形を模索していきたい。